

氏 名	原田 さゆり
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博乙第4577号
学位授与の日付	令和8年 3月25日
学位授与の要件	博士の論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文の題目	Associations of Resilience With Bonding Status After Preterm Birth (早産後の母親のボンディングとレジリエンスの関連)

論文審査委員	大植 崇教授	小野 智美教授	相原 洋子教授
--------	--------	---------	---------

学位論文内容の要旨

本研究は、母親のレジリエンスと、早産後の困難に適応する母親の能力が、ボンディングの過程に与える影響を明らかにすることを目的とした。早産群と正期産群ではボンディングに有意な差は認められなかった。早産群は獲得的レジリエンスのスコアが有意に高かった。出生後約1週間時点において、早産群における母親のボンディング形成において最も重要な要因は獲得的レジリエンス ($\beta = 0.50$, $p = 0.00$) であり、次いで夫のソーシャルサポート ($\beta = 0.31$, $p = 0.03$) であった。早産を経験した母親のレジリエンスを高めることが母親のボンディングを高めることにつながる可能性を示唆している。産後早期に母親の状態に合わせた介入を提供し、レジリエンスを強化することが重要である。また、夫が母親にとって最も信頼できる支援者となれるよう、夫も含めた看護支援を提供することが重要であることを示唆している。また産後うつスコアは、正期産群と比較して早産群で有意に高かった。ボンディングの状態にかかわらず、産後うつの状態に応じた心理的支援が必要である。

論文審査結果の要旨

本研究は、早産が母子ボンディングに影響を及ぼす可能性が指摘されている一方で、早産後の母子ボンディング形成に寄与する要因については十分に解明されていないという研究上の課題に着目している。特に、早産という予期せぬ出来事に直面した母親が経験する心理的困難に対し、母親自身のレジリエンスや適応能力が、母子ボンディングの形成過程にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的として、本研究は実施された。研究の結果、早産を経験した母親においては、レジリエンスが母子ボンディングに対して重要な影響を及ぼす要因であることが示され、母親のレジリエンスを強化することが、母子ボンディングの促進につながる可能性が示唆された。これらの知見は、産後早期における母親への心理的支援の在り方を検討する上で、実践的にも学術的にも意義深いものであると考えられる。

本研究には、一定の限界や検討課題が残されているものの、早産後の母親の心理的特性に着目し、母子双方を支援するための視点を提示している点は高く評価できる。以上のことから、本研究は今後の周産期看護および母子支援の発展に寄与する貴重な知見を提供するものであり、博士（看護学）取得にふさわしい研究であると判断される。